校訓	
	賢（かしこく）
	優（やさしく）
	健（すこやかに）

ゆりのきっ子

宇城市立松橋小学校　学校便り　NO.５
令和元年５月７日　　文責　主幹教諭　山本直子

令和元年がスタートしました。
そして、10連休が終わりました。

４月２６日、下校指導のお手伝いに行っていた時、何かしら子ども達の雰囲気もわくわくしていました。初めて話しかけてくれた子ども達がその中に何人かいて、「先生、ぼく〇〇に行くんだよ。」それを聞いていた子も負けじと「ぼくは、〇〇に行くよ。」「私のところには、いとこが来るんだよ。」等々、にこにこしながら連休中の予定を話してくれました。きっと、これまでにない大型連休を思い思いのスタイルで過ごされたことと思います。もしかすると、休み疲れもあるかもしれませんね。

その１０連休も終わりました。大変お世話になりました家庭訪問も無事終わりましたので本来の学校生活が始まります。おそらく、この１週間はリズムを取り戻す１週間になりそうです。そして、来週からは、運動会の練習が本格的に始まります。ご家庭でのサポートをどうぞよろしくお願いいたします。

正直・思いやり・気づき

私は、３年１組と４年生の理科の授業を担当しています。どちらも最初は「生き物」の観察や栽培から始まります。子ども達は外に出るのが大好きです。虫眼鏡を片手にお目当ての場所へと飛び出していきました。そして、そろそろ観察を終えて教室へ戻ろうと声をかけたとき、１人の男の子が「先生、ポケットに入れていた虫眼鏡がなくなりました。」と、心配そうに言いに来てくれました。きっと、観察後のスケッチに夢中になっていたのでしょう。４時間目ということもあり、給食当番ではない子ども達に探すのを手伝ってくれるように話すと、すてきな返事でその男の子が観察していたあたりを探し始めてくれました。そんな場面で、大雅さんが「虫眼鏡に色がついていると良いのに・・・」とつぶやきました。学校の虫眼鏡は、フレームも透明で確かに草が生い茂ったところに落とすと見つけづらいのです。もちろん、その虫眼鏡なのには理由があるはずですが、大雅さんの言うことにも一理あります。その後、無事に虫眼鏡は見つかりました。落としてしまった男の子もほっとしたことでしょう。きっとすぐに探したから見つかったのです。自分がしたことを正直に話してくれたこと、困っている友達を一生懸命助ける子ども達、困らないためにはどうしたらいいのか考えてくれた大雅さん。なんだか温かくなりました。

右の写真は、ドングリです。同じ時期に拾ったドングリですが、片方は芽(根)が出てもう片方は出ていません。４年生ではツルレイシ(ゴーヤ)を観察するのですが、その前に種から芽が出る様子を子ども達に見てもらおうと思い準備したものです。子ども達は、もちろんドングリは知っています。しかし、ドングリから芽が出るということを知らない子ども達も少なからずいます。４年生の子ども達にも聞いてみると「出ない。」ときっぱり答えた子もいました。その後、自信なさげに手を挙げた男の子が「カブトムシの幼虫を入れていた土の中にドングリを入れていたら芽が出てたから芽は出ると思います。」と教えてくれました。この事実には、最初の男の子も納得です。また、こんなに硬い殻だと芽を出すのも大変だろうということにも思いが派生します。そこで、同じように硬い殻のツルレイシの種がどうやったら芽が出やすくなるだろうと投げかけると、陸斗さんが「水につけると良いと思う。」と発言。そこから、殻をやすりで少し削るなどの意見が出され、それらの準備をして種をまくことになりました。

子ども達の気づきを大切にしたいなと思える２つの出来事でした。